

今から約 20 年前、右乳房下側にクリクリを見つけた私は、翌日すぐに市民病院外科を受診した。思ったとおり約 1 ヶ月後宣告が下された。出るまでの 1 ヶ月、まな板の上の鯉とはまさにこのこと！ 気持ちをどこに持っていけば良いのかそれすらわからなかった。しかし、乳がんとわかってしまうと、開きなおったような明るさを伴って仕事を休むことにした。

全摘出手術は思いのほか大変で、術後も右腕は体にくっついたままだったが、元通り順調に仕事に戻れ、少し薬を飲んだものの、ずっと再発を恐れながら仕事をした。

ただ、半面再発を恐れられないような、とんちんかんな面も持ち合わせていた。ホルモン剤を飲み続け、やっとそれも終わったおよそ 3 年半後、肺転移がみつきり奈落の底に突き落とされた。初発の時以上に私の心の中で死と結びついていた。どうして立ち直れば良いのか、わからなかった。でも能天気な私はあまり深く考えないでおこうと言う姿勢で、仕事と治療（職場も病院も近かった。）を続けていた。途中肺転移が大きくなり抗がん剤治療を受けることになったが、その時も、あまりめげず、仕事から大きな力を得ていた（障害のある子どもたちが力強く生きている！）。

30 年間仕事を続けて退職。今のうちに違うこともやっておきたかった。趣味や習い事で埋めつくされて、私の気持ちも意気揚々としていた。あけぼの会や、がん患者会の仕事もがんばろうと思っていた矢先、脳にも転移。電話で知った時は、家族みなが凍りついた。ガンマナイフの治療を計 5 回、全脳照射 1 回。私の乳がんはおとなしいといわれていたはず。だが、ここまでくるとは・・・

着付け、アレンジ、煎茶、朗読、パソコンいろいろな事をやってきたが、乳がんが全てを私から奪い去ってしまった。転移してから、良くない状況であっても視野を広めたいという興味はつきず、海外にも何カ国が行った。しんどい時には温かい家族がいてくれる。そして、患者会や、昔からの友人、あげたら尽きないたくさんの人々のおかげ。それから気持ちは少し落ち着いたが、1 年ほど経ったころほかに転移する場所が他にないよねといわんばかりの、肝臓転移！

花は忘れず咲いてくれる。鳥は必ず鳴いてくれる。それを忘れずに、私も生きていこうと思う。